

## 「カインの末裔」

2020年10月26日

レメクは妻たちに言った。「アダとツィラよ、私の声を聞きなさい。レメクの妻たちよ、私の言葉に耳を傾けなさい。私の受ける傷のために人を殺し／打ち傷のために若者を殺す。カインのための復讐が七倍なら／レメクのためには七十七倍。」(創世記4章23節～24節)

弟アベルを殺し、「カインは主の前を去り、エデンの東、ノドの地に死んだ。」「カインは妻を知った。」地上には、アダムとエバ、そして、カインしかいないはずだが、カインは妻を得ている。妻はどこにいたのであろうか。このような理屈に合わない話はしばしばある。アダムとエバが結婚した時、「男は父母を離れて妻と結ばれ、二人は一体となる」と書かれていたが、父母はどこにいたのであろうか。神話的表現は矛盾した書き方をし、一向に気に留めない。読む方も気にせず、著者の意図に沿えばよい訳である。

カインと妻の間にエノクが生まれた。カインは町を築き、息子の名前にちなんで、町の名をエノクと名付けた。町を築いたということは、住む住人がいたということである。カインは、「さすらう」という意味の「ノド」に住み、神から隠れ、さまよい、さすらう者になるという裁きを受けたが、町に定住する生活を目指している。エノクにはイラドが生まれた。イラドはメフヤエルをもうけ、メフヤエルはメトシャエルをもうけ、メトシャエルはレメクをもうけた。カインとその子孫、七代にわたる系図が記されている。

レメクはアダとツィラの二人の妻を娶った。神は、アダムに「二人は一体となる」と言われ、一夫一婦制を祝福している。レメクは、神のみ旨に反し、二人の妻を持っている。アダはヤバルを産み、彼は家畜を飼って天幕に住む者になった。その弟ユバルは琴や笛を奏でる者の先祖になった。音楽を奏でる者、芸術家になった。もう一人の妻ツィラもトバル・カインを産んだ。彼は青銅や鉄などで、色々な道具を作る者となった。青銅や鉄の発見は、人類に大きな発展をもたらし、世界を変えていった。彼の妹はナアマと言った。

ここで、父「レメクの歌」が書かれている。レメクの二人の妻たち、アダとツィラよ、私の声を聞き、私の言葉に耳を傾けよと、自分の力を見せつけるように、呼びかけている。この歌は傲慢の極みを歌ったものである。二つのことを歌っている。一つは「私の受ける傷のために人を殺し／打ち傷のために若者を殺す」である。私を傷つける者は殺す。打ち傷を負った場合は、将来ある若者でも殺す。私に逆らう者は容赦なく殺害すると、自分の力を最大限に誇示している。町を建て、子どもたちもそれぞれの職に就き、勢いは誰も止められない状態を誇っている。二つ目は「カインのための復讐が七倍なら／レメクのためには七十七倍」である。カインは弟アベルを殺し、さまよい、さすらう者とされたが、神はカインを殺す者は七倍の復讐を受けると言われ、カインを守るためにしるしを付けられた。レメクは、カインのための復讐が七倍ならば、自分の復讐は七十七倍と、無制限な復讐をすると、自分の力の絶大さを歌っている。傲慢はここに極まったという歌である。レメクの歌を読む限り、息子たちの畜産、音楽も人に喜びを与え、支えるものではなく、他者支配に用いられたのではないか。また、青銅や鉄も武器になり、殺害に使われたのではないかと想像してしまう。武器の製造と発達、歴史に悲劇をもたらした事実を凝視すべきである。アダムとエバの罪、カインの弟アベルの殺害から、レメクの目を覆う傲慢へ、罪は個人から社会的に広がったが、カインの末裔は、レメクの子どもたちの世代で終えている。変わって、アダムの別の男児の末裔が主の名を呼び始めた系図に移行している。